

厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
総括研究報告書

「がん治療のどの時期にでも患者・家族や医療介護機関からアクセス可能な緩和ケアリソース情報を有する
地域緩和ケアネットワークシステムの構築」に関する研究

研究代表者

下山 理史 愛知県がんセンター 緩和ケア部

研究分担者

杉下 明隆 名古屋大学医学部附属病院先端医療開発部先端医療・臨床研究センター
長谷川貴昭 名古屋市立大学病院・緩和ケアセンター

研究要旨：がん医療においても UHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)の理念に基づいて、緩和ケアをすべての人に対しあらゆる地域社会において提供することは至上命題である。しかし、現実的には病院医療や地域医療は未だ分断されている現状があるため、どのようにすれば患者に対して緩和ケアを継続して提供していけるかを研究し、そのためのシステムの構築及びそれを評価する枠組みの同定は急務である。本研究班では、地域に暮らす患者のニーズを同定し、そのニーズに応じた情報提供・情報共有ツールを構築し、そのシステムを評価する指標として、進行がん患者へのがん治療と在宅緩和ケアの統合の質指標の QI 同定を行った。

A. 研究目的

現在がん診療拠点病院ではがんと共生を実現すべく、患者本位のがん医療の実現とともに尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築に取り組んでいる。「緩和ケアプログラムによる地域介入研究 (OPTIM)」の結果、介入地域では在宅死亡率が増加し緩和ケアサービスを受けた患者比率もその満足度も大幅に上昇、医療者同士のコミュニケーションが改善した (Morita T, Lancet Oncol 2013, Kinoshita H, J Clin Oncol 2015)。しかし、当時と地域緩和ケア連携に関する状況はあまり変わらない現状があった。また、地域における治療中の苦痛を相談する場が少ないこと、個別の希望・価値観に添った緩和ケアが提供されていないことが国際的にも指摘されているが (Kassa S, Lancet Oncol 2018)、日本でもまた同様である。治療中の在宅緩和ケアに関しては未だ不十分であり、治療を受けつつ安心して暮らすためには地域格差が大きい。

本研究では、

- (1) がん経験者の地域緩和ケアニーズを明らかにすること。
- (2) 患者・家族側の生活に密着したニーズが十分取り入れられた情報共有体制（ホームページ）を構築すること。
- (3) 進行がん患者へのがん治療と在宅緩和ケアの統合の質指標 (QI) を作成すること。

を目的とし研究を行った。

B. 研究方法

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大状況の中であったた

め、フィールドワークによる調査は断念し、インターネット調査にて地域緩和ケアニーズの調査を令和3年度の研究にておこなった。この研究結果を基に、令和4年度は必要な情報を同定し、(2)にて構築するホームページの内容に活かした。

- (2) 初年度から構築してきたホームページに(1)の内容を加え、地域に暮らすがん患者のニーズに応じた地域緩和ケアに関連する情報提供および、患者を支援する医療介護関係者の情報共有ページを構築した。
- (3) 令和3年に行ったスコーピング・レビューに基づいて、進行がん患者へのがん治療と在宅緩和ケアの統合の質指標 (QI) の同定を行った。
- (4) アドバンスケアプランニングについてのグループワークが開催され、そこで出された意見について、大筋を短時間で把握できることを目的とした質的な分析を行った。

C. 研究結果

- (1) R3年度に行ったがん経験者への意識調査の結果を踏まえ、解析しなおした。本解析からは、「抗がん治療を受けながら在宅医療を受ける」意向を確認するためには、まず、医療者側でどのような時にどのようなことが在宅医療で提供できるのかを明示することが必要であると考えられた。抗がん治療と併用する在宅医療の適した状態は、①通院が何らかの状態で困難だが病状としては比較的安定している患者に対して現

在病院で提供しているのと同等の医療を提供するもの、②体調が悪い時に支持治療や苦痛緩和を行うもの、③希望する患者に対して病院での抗がん治療と並行して支持治療・緩和治療・精神的サポートやがんに関する情報提供を行う、といったものが想定される。その際に、患者の状態をリアルタイムで共有できるシステム（直近の画像所見や血液所見、受けている化学療法がわかること）と、がん治療そのものに在宅医療のスタッフが詳しいことが前提となる。また、在宅医療に関する費用は患者にとって相応であると判断されるものである必要がある。一方、通院が負担ではなくかつ通院しなければできないフォローアップをうけている患者、もともと家に入られたくないという考えの患者、および、在宅医療で死を連想しできるだけの治療を受けたいという考えの患者には適さない枠組みであると考えられる。

- (2) R3年度に行った上記意識調査の結果を踏まえ、求められるデータとして、希望する患者に対してではあるものの、①どのような時にどのようなことが在宅医療で提供できるのか、②病院での抗がん治療の内容、③在宅医療の中で受けることができる支持治療・緩和治療・精神的サポートやがんに関する情報提供、が挙げられたため、これらに関する項目を表示することができるシステムを構築した。
- (3) 文献検索で抽出された 973 件の文献について、2名の緩和医療専門医で、スコーピング・レビューを行った。1次スクリーニングを行った結果、126件の文献が同定され、全文閲覧を行った(2次スクリーニング)。その結果、13件の研究が同定され、同研究の文献から QI 候補を抽出した。名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会の承認を経て、がん診療・緩和ケア等の領域の専門家 37 名による専門家パネルでデルファイ変法を用いて、適切性の評価を行った。2回の実施で収束を得て、まもなく抽出された QI 候補についての実施可能性について専門家パネルで回答を求める予定である。
- (4) 発言内容は、「ACP の目的」と「ACP をすすめるうえで必要なこと」とに大きく区分された。ACP の目的は、「ACP の目的は患者の希望や思いが尊重されることである」との意見が非常に多かった。ACP をすすめるうえで必要なことは、1) 医師からきっかけとなる病状説明があること、2) 患者自身のタイミングで話すこと、3) 多職種で複数のセッティングで患者の思いをその都度無理なくひろっていき、一度にするものではないこと、4) 経時的な推移や変化がわかること、5) 地域全体で患者の思いを共有できるツールがあること、が語られた。

D. 考察

この研究班が活動した 3 年間は、くしくも新型コロナウイルス感染症の拡大した 3 年間に一致しており、十分なフィールドワークは感染対策の下、制限された。

しかし、その間に構築されたあらたなネット社会における活動形式を利用し、インターネットによるアンケートを行い、ニーズを拾い上げた。その結果、くしくも 2012 年に報告された OPTIM 研究の際に指摘された地域における緩和ケアニーズと酷似したニーズが同定されたのだが、これはこの 10 年間の間で地域医療・在宅医療は普及してきたものの、患者のニーズ自体はあまり変わらないという結果を示唆している。しかし、新たに得られた情報としては、少しでも早いうちががん医療と地域の緩和ケアリソースにつながるために必要な状態が同定されたことであった。

この結果等を基に、地域の緩和ケアに関する情報を家に居ながらにして得て活用することができるシステムを構築した。これは、今後がん医療だけでなく様々な医療にも応用できる枠組みとして有効なものである。また、同時に医療者の困りごとに対しても同じホームページ上で対応できる枠組みを構築した。これは、地域を支える医療者が安心して患者を引き受け、看取りまで支援するために欠かせない情報ハブであり、このハブを生かすことにより、患者の支援の質はより高まることが期待される。

さらには、進行がん患者へのがん治療と在宅緩和ケアの統合に関連して昨年度行ったスコーピング・レビューに基づきの質指標 (QI) の同定も行ったが、これは、このシステムだけでなく、少しでもいつでもどこでも切れ目のない緩和ケアを提供する体制を評価するために欠かせない、世界でも初めての質指標となることが想定されている。残念ながら同定される前に研究期間が終了となってしまったが、今後継続して研究を行い、QI の同定を行う予定である。

ACP に関する情報は、地域緩和ケアネットワークを構築する際に欠かせないものであり、本研究の支援によって、さらに今回構築したホームページの内容 (ACP で話し合われたことを盛り込むことでだれもが経時的にその人の思いを共有することができること) を充実させることができるようになった。

E. 結論

当初計画していた、がん治療のどの時期にでも患者・家族や医療介護機関からアクセス可能な緩和ケアリソース情報を有する地域緩和ケアネットワークシステムは、地域限定ではあるものの構築することができた。またその効果および進行がん患者へのがん治療と在宅緩和ケアの質を評価するための QI の同定にも取り組んだ。本研究により、今後のがん治

療における切れ目ない緩和ケアの提供体制を支援し
その質を評価する体制が整った。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

